

西北地域

五所川原市、つがる市、鱒ヶ沢町、深浦町、板柳町、鶴田町、中泊町



1. 2030年における地域のめざす姿

たくましい農林水産業

農林水産業を支える基盤となるきれいな農地、水、環境が守られ、安全・安心、高品質な農林水産物が地域ブランドとして広く流通し、既存販路の拡大や新規エリアの開拓が進んでいます。

地域が一体となった取組により経営感覚に優れた生産者等の育成が進むとともに、生産された農林水産物が地元事業者により付加価値を高めて流通・販売されるなど、地域の6次産業化が進展しています。

農林水産業に夢を持つ若者の増加や地域経営体の育成・大規模化により、働く場所の確保が進み、多様な取組が展開されるとともに、作業のICT化等により労働力不足への対応が進んでいます。

「シンカ※」し続ける観光産業

地域の人たちが一体となって、発掘した観光資源に誇りを持ち、風土に根ざしたストーリー性のある観光コンテンツづくりに継続して取り組み、地域の魅力を世界に向けて発信し続けることによって、国内外からの共感を得て多くの観光客が訪れ、観光産業が成熟した産業として確立しています。

滞在型観光や冬季観光の取組にも力を注ぎ、ここにしかない自然や歴史、食、生活、産業、それらが織り成す景観に癒しを求め、何度でも訪れる観光客が増加するとともに、四季を通じて遊び、楽しめる地域として滞在時間が伸びています。

まちづくり・人づくりにより受入態勢が充実し、「住むならここ!!」と地域の人々が誇りに思い、「何度でも訪れたい」、「住んでみたい」地域として選ばれています。

地域ぐるみで健康づくり

健康的な生活習慣づくりや疾病予防に対する意識が地域住民の日常生活に浸透しており、全国の平均寿命との格差が縮小し、健康寿命が延伸しています。

地域ぐるみでこころと体に関する健康づくりが進んでおり、生活習慣が改善し、自殺者が減少しています。

住民の理解と協働の下、医療機関の役割分担がなされ、救急医療や在宅医療など地域の医療提供体制が充実し、住み慣れた地域で暮らし続けています。

暮らしやすい社会

地域で頑張る若者の取組を評価し、応援することで、次世代の目標となる人材が育成されるとともに、地域に根ざした農林水産業や観光産業が魅力を増し、地元への人材定着が増えています。

また、これまで支えてきた人との世代間交流が活発に行われ、世代交代も円滑に進むとともに、地域で安心して次世代の子どもたちを産み育てることができる環境が整っています。

地域の支え合いや行政・民間との連携の下、地域で生まれた誰もが、地域で育ち、地域を助け、地域で安心して老後を迎えることができます。

人口減少によって生じた空き家の活用等が進み、住環境が良好に保たれています。

ごみの減量と分別がしっかりと行われ、リサイクルの取組により限りある資源が有効に活用されています。

※シンカ:「シンカ」とは、「進化」、「深化」、「真価」などと表現することが可能であり、地域住民が一体となって継続的に地域資源の活用(発掘・磨き上げ・商品造成)と情報発信に取り組むことで、観光の品質も昇華していき、地域における主要産業として確立されているという思いを込めています。

2. 地域の概要、特性と課題 ～めざす姿の背景～

(1) 地域の概要

厳しくも豊かな自然環境

西北地域の地勢は、西部は日本海に面し、東部及び北部は中山山脈が連なり、南部には世界自然遺産白神山地が控えています。

気候は、夏季は内陸型の気候で高温多湿ですが、北部では偏東風(ヤマセ)が発生することもあります。冬季は豪雪で日本海からの強い偏西風の影響を受け、地域によっては雪が舞い上がって吹き荒れる「地吹雪」が発生します。

白神山地に源流を持ち、西北地域を縦断して日本海に注ぐ岩木川沿いには津軽平野が広がり、稲作を中心とした穀倉地帯を形成しているほか、果樹、野菜の生産も盛んです。



地域の交通網

交通網の状況を見ると、道路は、国道101号と国道339号、つがる柏ICまで供用されている津軽自動車道が幹線を形成しています。また、鉄道は、JR五能線と津軽鉄道が生活路線としてのみならず、海岸沿いの絶景を楽しむ「リゾートしらかみ」や冬の風物詩「ストーブ列車」など全国的にも人気の高い観光路線としても重要な役割を果たしています。



広大な農地と豊かな海が育む農林水産業

水稻を基幹として、大豆や小麦の畑作物、りんご、ぶどうなどの果樹、メロン、すいか、ながいも、ねぎ、トマト、ブロッコリーなどの野菜が生産され、畜産は、肉牛が地域ごとにまとまりを持って経営され、養豚及び酪農には特徴的な経営を行う事業者もいます。水産業では、マグロやイカ、ブリ、メバル、ヒラメ、十三湖のシジミなどの地域資源が豊富なほか、サーモン養殖の取組も期待されています。

これらを生かし、管内各市町で地域ブランド化への取組が本格化しているほか、水田農業を主体とした大規模経営体や加工・販売活動に意欲的な女性が起業するなど、雇用の場が増加しています。



悠久の時と独特な文化を生かした西北の観光

西北地域には、世界自然遺産白神山地や青池、権現崎などの自然、世界文化遺産登録をめざす「北海道・北東北の縄文遺跡群」を構成する亀ヶ岡石器時代遺跡などの縄文遺跡や中世の面影が残る十三湊遺跡、2017(平成29)年に日本遺産に認定された「北前船」の活気を伝える白八幡宮や円覚寺などの歴史文化、その巨大さで見る者を圧倒する五所川原立佞武多を始めとする地域の祭り、津軽三味線などの伝統芸能、2019年に生誕110年を迎える太宰治の生家斜陽館、りんごをまるごと楽しめる板柳町ふるさとセンターのほか、近年外国人旅行者にも人気が高い日本最長の木造三連太鼓橋「鶴の舞橋」や朱塗りの千本鳥居が象徴的な高山稲荷神社など多彩な観光資源があります。

また、マグロ、メバル、ヒラメなど地域の食材を生かしたご当地グルメの開発や健康志向に着目したコンテンツ開発で滞在型観光の促進に向けた動きも活発化しています。



いのちを守る

平均寿命は着実に延びてきていますが、全ての市町が全国平均を下回っている状況にあります。40歳代から60歳代までの男性、50歳代から60歳代の女性の死亡率が高く、生活習慣に起因する悪性新生物・心疾患・脳血管疾患の死亡率が高いことが特徴です。また、自治体病院機能再編により、2014(平成26)年4月に「つがる総合病院」が開設し、地域の中核病院としての役割を担い、切れ目ない医療を提供するため地域連携の強化に努めています。

暮らしを守る

西北地域は、県内でも有効求人倍率が低く、働場の少なさやミスマッチなどの理由から、若者たちが流出しています。一方、老年人口(65歳以上)は2020年にピークを迎えますが、県全体では、65歳以上の高齢単身世帯が増加していく見通しであり、西北地域でも高齢単身世帯の増加が予想されます。これらの状況を踏まえ、地域で生まれ、地域で育ち、地域を助け、地域で安心して老後を迎えることができる社会の実現に向けた取組が始まっています。

(2) 地域の特性と課題

構成市町村ごとの人口と世帯数

西北地域の人口は、14万5,566人で、県全体の11.1%を占めています。人口(2010年:15万9,044人)、世帯数(2010年:5万3,919世帯)とも減少しています。(表1)

表1 構成市町村の人口・世帯数

	五所川原市	つがる市	鯉ヶ沢町	深浦町	板柳町	鶴田町	中泊町	合計
人口(人)	55,181	33,316	10,126	8,429	13,935	13,392	11,187	145,566
世帯数	21,143	10,981	3,851	3,304	4,680	4,384	4,118	52,461

資料:総務省「平成27年国勢調査」

将来推計人口

西北地域の将来人口は、2030年には現在の72.8%(10万6,024人)まで減少するものと推計されています。また、老年人口の割合が45.8%(4万8,553人)まで上昇し、2人に1人は高齢者という見通しで、一方、年少人口(0歳~14歳)は7.8%(8,268人)まで減少する見通しです。2030年の将来人口を構成市町村別に見ると、深浦町は現在の62.6%、中泊町が63.4%、鯉ヶ沢町が65.6%まで減少する見込みとなっています。(図1、表2)

図1 将来推計人口の推移(西北地域)

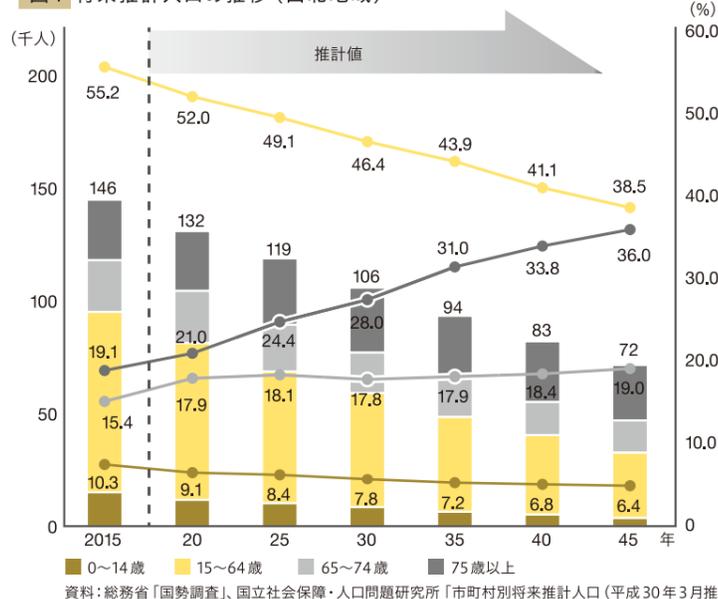


表2 構成市町村別将来推計人口(人)

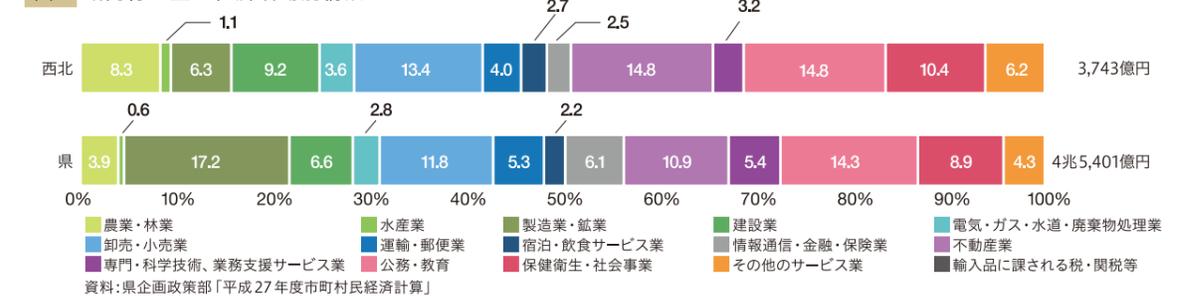
	2015年	2030年	2045年
五所川原市	55,181	43,527	31,867
つがる市	33,316	22,900	14,491
鯉ヶ沢町	10,126	6,647	3,959
深浦町	8,429	5,278	2,956
板柳町	13,935	9,917	6,428
鶴田町	13,392	10,665	7,940
中泊町	11,187	7,090	4,021
計	145,566	106,024	71,662

資料:国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」

域内総生産の経済活動別構成

域内総生産は3,743億円で、県全体の8.2%を占めています。内訳を見ると、「公務・教育」、「不動産業」のほか、「卸売・小売業」の割合が高くなっています。県全体と比べると、「農業・林業」、「建設業」、「卸売・小売業」の割合が高く、「製造業・鉱業」、「運輸・郵便業」、「情報通信・金融・保険業」の割合が低くなっています。(図2)

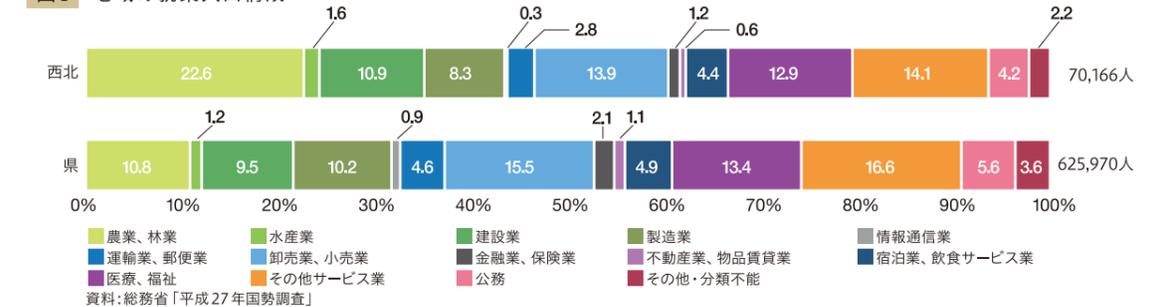
図2 域内総生産の経済活動別構成



就業人口構成

就業人口は7万166人で、県全体の11.2%となっています。内訳を見ると、「農業・林業」、「卸売業、小売業」の割合が高くなっています。県全体と比べると、「農業・林業」や「建設業」の割合が高く、「製造業」や「卸売業、小売業」、「医療、福祉」の割合が低くなっています。(図3)

図3 地域の就業人口構成



農林水産業における西北の位置

2010(平成22)年に比べると、経営規模10ヘクタール以上の農家が増加するなど大規模化が進んでいます。また、2013(平成25)年度から生産額が減少していましたが、2015(平成27)年度は米価の上昇により生産額が増加しています。(表3、図4)

図4 西北地域の市町村内総生産(実額、農林水産業)の推移



表3 農業経営規模別経営体数

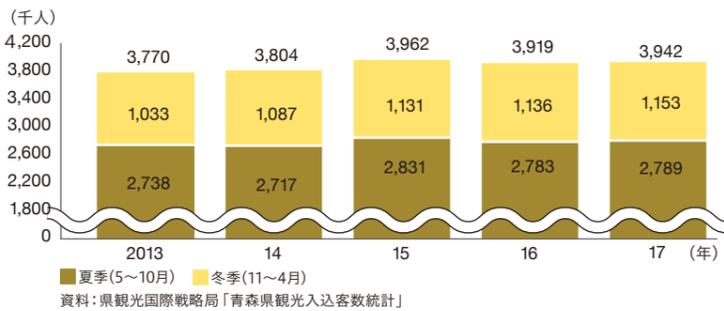
	1ha未満	1~5ha	5~10ha	10~15ha	15~20ha	30ha以上	計
平成27年(a)	2,089	4,808	914	420	100	66	8,397
平成22年(b)	3,083	6,116	1,006	399	71	51	10,726
増減率(%) (a)/(b)-1	▲32.24	▲21.39	▲9.15	5.26	40.85	29.41	▲21.71
増減数(a)-(b)	▲994	▲1,308	▲92	21	29	15	▲2,329

資料:農林水産省「2010年世界農林業センサス」及び「2015年世界農林業センサス」

観光入込客数

2013(平成25)年以降、観光入込客数は順調に増加してきましたが、近年は横ばいとなっています。
観光入込客は夏季(5-10月)に集中し、冬季(11-4月)は夏季の4割程度となっており、季節間の変動が大きい状況が続いています。(図5)

図5 西北地域の観光入込客数の推移



平均寿命

2015(平成27)年の平均寿命は2010(平成22)年に比べると延伸し、その伸び幅は半数以上の市町で全国の伸び幅と同等以上となっていますが、全国平均とは依然隔たりがあります。(図6、表4)

図6 市町村別平均寿命(2015年)

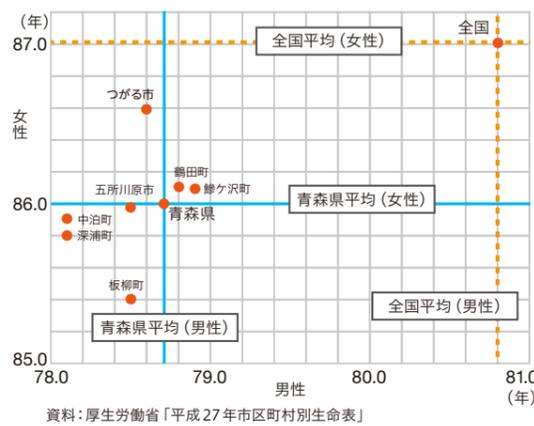


表4 全国・県・西北地域市町の平均寿命

順位	全国	男性			女性			
		2010年	2015年	伸び	2010年	2015年	伸び	
		79.6	80.8	1.2	86.4	87.0	0.6	
	青森県	77.3	78.7	1.4	85.4	86.0	0.6	
1	鯉ヶ沢町	77.0	78.9	1.9	深浦町	84.4	85.8	1.4
2	鶴田町	77.0	78.8	1.8	鯉ヶ沢町	85.1	86.1	1.0
3	五所川原市	77.3	78.5	1.2	五所川原市	85.4	86.0	0.6
4	中泊町	76.9	78.1	1.2	中泊町	85.3	85.9	0.6
5	板柳町	77.4	78.5	1.1	つがる市	86.3	86.6	0.3
6	つがる市	77.8	78.6	0.8	鶴田町	86.1	86.1	0.0
7	深浦町	77.5	78.1	0.6	板柳町	86.0	85.4	-0.6

資料：厚生労働省「平成22年及び平成27年市区町村別生命表」

健診実施率・がん検診率

2016(平成28)年度の特定健康診査実施率、乳がん検診率は、着実に増加していますが、「健康あおり21(第2次)」で設定した目標値とは依然隔たりがあります。(表5、表6)

表5 特定健康診査実施率

項目	西北		県		2012年度 目標※1	2022年度 目標※2
	2011年度	2016年度	2011年度	2016年度		
実施率(%)	28.3	36.0	29.0	36.3	68.0	70以上

資料：西北は青森県国民健康保険団体連合会特定健診データ
※1 県健康福祉部「健康あおり21」目標値
※2 県健康福祉部「健康あおり21(第2次)」目標値

表6 がん検診受診率

項目	西北		県		2012年度 目標※1	2022年度 目標※2
	2011年度	2015年度	2011年度	2015年度		
胃がん(%)	31.1	21.2	21.7	17.3	50	50以上
大腸がん(%)	36.5	27.1	28.6	23.9		
肺がん(%)	37.8	25.8	22.4	18.7		
子宮がん(%)	30.9	29.5	29.4	29.8		
乳がん(%)	16.7	19.2	17.9	22.1		

資料：厚生労働省「平成27年度地域保健・健康増進事業報告」
平成27年度から健診対象者の定義を全住民としたことから平成26年度までの受診率に違いが出て比較が困難になった。
※1 県健康福祉部「健康あおり21」目標値
※2 県健康福祉部「健康あおり21(第2次)」目標値

生活習慣

生活習慣の多くの項目が2010(2011)年度を下回っており、また、「健康あおり21(第2次)」で設定した目標値とは依然隔たりがあります。(表7)

表7 生活習慣に関する状況

項目		西北			県		2012年度 目標※4	2022年度 目標※5
		2010 (2011)年度	2016年度	n:西北地域の 調査数	2010年度	2016年度		
食塩摂取量 (g/日)※1	男性	13	12	n=16	10.5	10.5	10未満	8.0
	女性	10	11	n=26				
野菜摂取量 (g/日)※1	男性	306	286	n=20	265	300.2	350以上	350.0
	女性	273	264	n=29				
歩行数 (歩/日)※1	男性	5,781	4,728	n=6	6,884	7,418	8,000以上	8,500以上
	女性	4,400	4,429	n=7				
肥満者の 割合(%)※2	男性	34	35	n=5,509	37.4	33.9	25以下	34
	女性	27	27	n=7,199				
喫煙率(%)※3	男性	30	30	n=5,509	36.1	26.5	25以下	23以下
	女性	6	6	n=7,201				

資料 ※1 県健康福祉部「平成22年度・平成28年度県民健康・栄養調査」
※2 西北は青森県国民健康保険団体連合会「平成23年度・平成28年度特定健診データ」、県は「平成22年度・平成28年度県民健康・栄養調査」
※3 西北は五所川原保健所「平成23年度・平成28年度市町村国保特定健診問診票集計」、県は「平成22年度・平成28年度県民健康・栄養調査」
※4 県健康福祉部「健康あおり21」目標値
※5 県健康福祉部「健康あおり21(第2次)」目標値

高齢単身世帯の増加

一般世帯数に占める高齢単身世帯数は、各市町において増加しており、県内における高齢単身世帯数の割合も西北地域が最も高くなっています。(図7、図8)

図7 高齢単身世帯数の状況(西北地域)

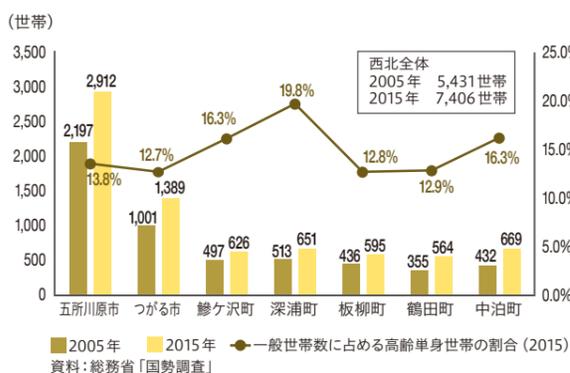
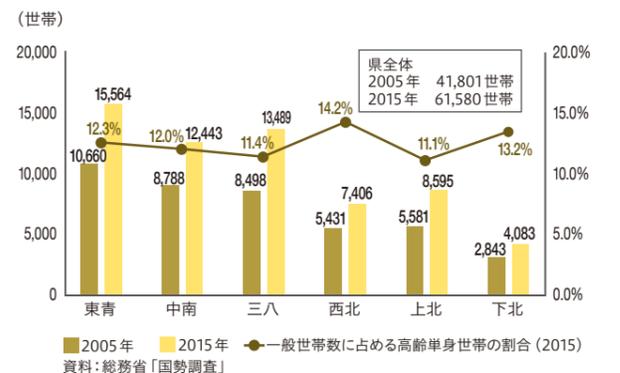


図8 高齢単身世帯数の状況(地域別)



ごみ処理の状況

ごみ総排出量は、全国や県内他地域に比べて少ない状況にありますが、リサイクル率は全国平均とは依然隔たりがあります。(図9、図10)

図9 1人1日当たりごみ排出量の状況(総計)

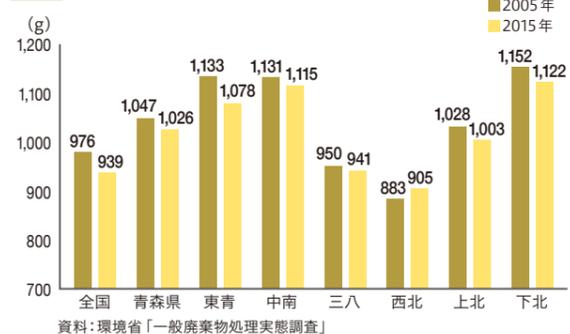
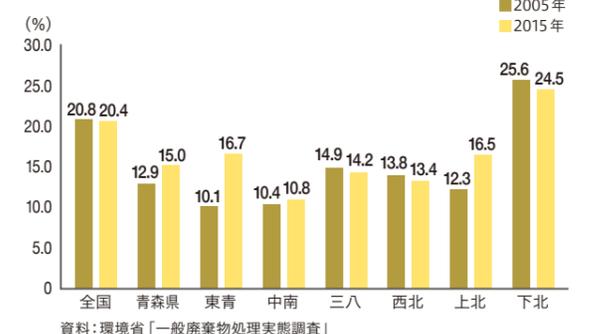


図10 リサイクル率の状況



3. 今後5年間の取組の基本方針と主な取組

1 ブランドカアップで稼ぐ 農林水産業の推進

消費者ニーズに対応し、かつ地域の特性を生かした安全・安心で付加価値の高い農林水産物の生産による地域ブランド力の強化と地元の資源や人材を活用した地域の6次産業化を推進します。

また、人口減少社会の中で農林水産業を地域の基幹産業として一層発展させるため、担い手の確保・育成と省力・低コスト生産に取り組むとともに、一次産業の基盤となるきれいな農地、水、環境の保全と再生を図ります。

主な取組

- 1 マーケットインによる産品づくりや販売ネットワーク化の推進と地域ブランド化に向けた情報発信の強化
- 2 地元の生産者、加工・販売業者の連携促進による地域の6次産業化の推進
- 3 地域の生産者や団体、行政機関と教育機関等が連携した担い手確保と技術・経営力の向上や優良経営体の情報発信
- 4 ICTやロボット化技術を活用した省力・低コスト技術の導入による労働生産性の向上
- 5 豊かな森林の整備、環境に配慮した農業生産や藻場の整備などによる豊かな海づくりの推進

2 チャンスを生かし、 地域が一体となった観光の推進

太宰治生誕110年(2019年)、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催(2020年)、東北新幹線新青森駅開業10年(2020年)、北海道新幹線奥津軽いまべつ駅開業5年(2021年)、そして「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録に向けた取組など、国内外からの誘客につながる機会が次々に控えています。

これらのチャンスを生かし、地域が一体となって観光コンテンツの開発と磨き上げやリピーター獲得に向けた受入態勢の強化に継続して取り組むとともに、誘客の促進や情報発信の推進に向けた人材育成・連携方策などの充実を図ります。

主な取組

- 1 誘客の強化のための地域資源の発掘・磨き上げ・観光コンテンツ化、既存コンテンツの見直しの推進
- 2 テーマ性を有する観光コンテンツの開発推進
- 3 観光コンテンツを活用した新幹線駅等の玄関口からの観光ルートの形成
- 4 観光客がまた訪れたいくなるような受入態勢の整備や観光客の期待に応える仕組みづくり
- 5 相手に響く地域の情報の発信などを担う人材の育成と人材同士の連携の促進
- 6 地域が一体となった観光情報発信の促進

3 地域が一体となった 健やかな地域づくり

ヘルスリテラシー(健やか力)の向上や定期的な検診等に、働く現場を含む地域ぐるみで取り組みます。

また、バランスの良い食生活の定着や生活習慣の改善、こころと体の健康づくりに関する地域ぐるみの相談支援体制の充実に取り組めます。

初期医療や健康相談を担うかかりつけ医の普及、二次医療機関の役割周知など地域の医療を支える体制の強化と、医療と介護の連携強化に取り組めます。

主な取組

- 1 特定健診・特定保健指導やがん検診の意義の浸透と受診意識の醸成、健診後のきめ細かな個別支援体制の充実
- 2 子どもの頃からの栄養・食生活に関する正しい知識の習得、日常生活における運動習慣定着化の推進
- 3 禁煙支援や受動喫煙防止対策の推進
- 4 こころの健康に関する相談窓口の周知や各相談窓口担当者間の連携強化、ゲートキーパー※等の人材育成
- 5 医療機関ごとの役割分担の周知や医療機関とケアマネージャー等との連携の強化

4 ふるさとを愛し、共に生き、 暮らすことができる地域づくり

若者の地域への定着に向け、農林水産業や観光産業の推進による働く場の創出に取り組むほか、地域を愛し、誇りに思う心を醸成する取組を促進します。

出会いの場の創出、結婚・妊娠・出産・子育てに至る切れ目のない支援を推進します。

地域で支え合いながら、安心して暮らすことができる社会づくりのための取組を促進します。

未利用資源としての空き家の活用などに向けた取組を促進するとともに、ごみ排出量の削減とリサイクルの推進等に取り組めます。

主な取組

- 1 農林水産業や観光産業の推進による若者の働く場の創出、次世代の若者を育むための取組の促進と幅広い世代間交流の場づくり
- 2 市町村などと連携した出会いにつながるサポート体制の充実、結婚から子育ての総合的な取組の推進
- 3 「青森県型地域共生社会」の実現に向けた、高齢者等に対する見守り・買い物・移動・除雪などの生活支援や高齢者の居場所・交流の場づくりの推進
- 4 市町村などと連携した適正な空き家活用・管理・処分方策の促進
- 5 市町村などと連携したごみの減量と分別に対する地域住民の意識改革の促進、協力体制の構築

※ゲートキーパー：自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応(悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る)を図ることができる人のことです。

上北地域

十和田市、三沢市、野辺地町、七戸町、六戸町、横浜町、東北町、六ヶ所村、おいらせ町



1. 2030年における地域のめざす姿

戦略的な農林水産業が展開されている地域

広大で良質な生産基盤に恵まれた上北地域では、地域の中核を担う経営体が高齢者とも連携した活動を展開し、地域の経済を支える仕組みづくりや、担い手の育成、地域コミュニティの維持・活性化に取り組むなど、「地域経営」の視点を持ち合わせた意欲的な農林水産業が展開されています。

高い経営力を持った人材の育成を通して効率的な生産体制の構築が進められるとともに、土づくりが徹底された豊かな大地と、環境公共によって支えられた清らかな水から生産される安全・安心で高品質な農林水産物は、関係者が結集した販売戦略の展開により、地産地消の意識が醸成された県内消費者はもとより、国内外の消費者に愛されるブランドとして流通しています。

強みを生かした魅力的な産業が育まれている地域

上北地域は、「ナショナルパーク※」として世界から認知されている十和田湖・奥入瀬渓流に代表される美しい自然や、豊かな食、歴史、文化、伝統工芸、そして先進的なエネルギー産業の集積など、地域ならではの貴重な魅力を有しています。

こうした地域資源を滞在しながら体験する、グリーン・ツーリズムやエコツーリズム、アートツーリズム※、エネルギーツーリズム※などを楽しむため、四季を通じて多くの国内外の旅行客が訪れています。

また、食の一大産地である上北地域では、農商工と研究機関相互の技術・情報交流が図られ、地元食材を活用した魅力的な商品や消費者ニーズを踏まえた新たな特産品の開発、産地ならではの外食メニューの提供など、食でつながる産業が発展しているほか、安定した風況やバイオマス資源が豊富であるといった地域特性を生かした、周辺環境や景観と調和した形での再生可能エネルギーの導入が進んでおり、クリーンエネルギーの供給拠点となっています。

特にむつ小川原開発地区を中心に、風力発電施設、太陽光発電施設、原子燃料サイクル施設、核融合関連施設、原子力人材育成・研究機関などが集積し、エネルギー産業の拠点化が進展することで、地元の雇用の場が拡大しています。

地域ぐるみで実現する安全・安心な共生社会

人口減少や高齢化による課題を克服するため、地域では住民、企業、NPO、市町村などが連携し、生活を維持するために必要となる交通弱者への対応や除雪、高齢者の見守り、空き家の活用、防災などの活動に自発的に取り組む共生社会が実現されています。

成熟した地域コミュニティと東日本大震災の被災経験を基に築かれた強固な防災対策が施された、災害に強く自然豊かな住空間の下、一人ひとりが生きがいを持って安全・安心に暮らすことができる環境が維持されており、健康面においても保健・医療・福祉が連携した包括ケアシステムを通じての予防に重点を置いたところと体の健康づくりが進められています。

地域を守り育てていく「上北人」が活躍する地域

上北地域に魅せられ、自ら行動し、関係者の協力を得ながら、夢を形に変えていく人材「上北人」が数多く活躍しています。

地域が培ってきた伝統を次世代に引き継いでいくための活動に力が入れられており、地元への誇りと愛着を感じる子どもたちが生まれています。

良質な食材と風光明媚な自然、魅力的な「生業」が存在する上北地域は移住先としても支持されており、関係人口が拡大する中、首都圏等からの人材の還流と定着が進んでいます。

子どもたちの成長や、移住者の上北地域への定着などにより、更なる「上北人」が生まれ、地域を支えています。

※ナショナルパーク：政府が策定する「明日の日本を支える観光ビジョン」で掲げられる世界水準の国立公園のことです。環境省が進める「国立公園満喫プロジェクト」として、十和田八幡平国立公園のほか全国7箇所の国立公園において、2020年までのナショナルパークとしてのブランド化をめざし、取組が進められています。

※アートツーリズム：美術館などの展示施設や、野外彫刻などの芸術作品を巡ることを目的とした観光活動のことです。

※エネルギーツーリズム：エネルギーに関する造詣を深めることを目的に、学びの場としてエネルギー関連施設を巡ることを目的とした観光活動のことです。

2. 地域の概要、特性と課題 ～めざす姿の背景～

(1) 地域の概要

十和田湖に代表される豊かな水域と肥沃な大地が広がる地域

上北地域は、北部は陸奥湾、東部は太平洋に面し、西部には八甲田山系が連なり、中央部から東部の太平洋岸にかけて平坦な台地と平野が広く分布しています。

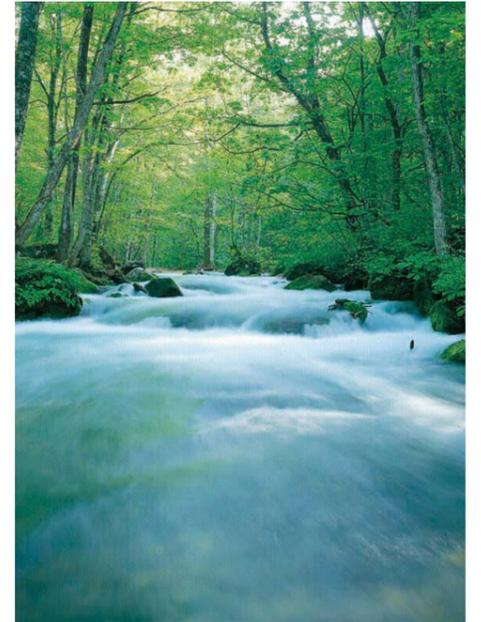
南西部の秋田県との県境には十和田湖、北東部太平洋岸付近には小川原湖を始めとする数多くの湖沼が存在しています。

地域の南部には、十和田湖に源を発し太平洋へ注ぐ、流域住民が「母なる川」として守り育ててきた奥入瀬川が流れており、地域に潤いと恩恵をもたらしています。

奥入瀬川からは藩政時代に開発が始められた人工河川である稲生川が分岐しており、現在でも十和田市のほか、周辺6市町の農業用水として利用されています。

気候としては、春の終わりから夏にかけて冷たく湿った偏東風（ヤマセ）が吹くことがありますが、北部や山間部を除いては、冬は晴天の日が多く、県内では雪が少ない地域となっています。

面積は、約2,127平方キロメートルであり、県内全体の約22%を占めています。



空港や新幹線駅を有する交通の要衝

道路は、幹線として、みちのく有料道路や国道4号、国道102号などがあるほか、国道45号上北道路、国道279号下北半島縦貫道路（野辺地IC～横浜吹越IC）が順次供用されています。また、国道45号上北天間林道路、国道279号下北半島縦貫道路及び国道103号青楓山バイパスなどの整備が進められています。

鉄道では、東北・北海道新幹線、青い森鉄道、JR大湊線が運行されています。

東北新幹線七戸十和田駅や三沢空港を有しており、陸と空の両面において本県の交通の要衝となっています。



豊富な農林水産物の生産地

上北地域では、清浄な水と健康な土づくり運動により育まれた肥沃な土壌を生かして、米のほか、ごぼう、ながいも、にんにく、だいこんなどの野菜が大規模に栽培されており、全国的な産地として知られています。

畜産は、乳用牛、肉用牛、豚の飼養頭数が県全体の半数以上を占めるなど主要な産業になっており、良質な生乳や食肉、鶏卵などが生産されています。

水産物は2017(平成29)年12月に地理的表示保護制度(GI)の登録を受けた「小川原湖産大和しじみ」を始め、十和田湖のヒメマス、三沢沿岸のホッキ貝、陸奥湾のホタテ、ナマコなど全国的にも知名度を有する産品が水揚げされています。



国内有数のエネルギー関連施設の集積地

むつ小川原開発地区(六ヶ所村)には、蓄電池併設型ウインドファーム*を含む風力発電施設、国内最大規模のメガソーラー発電所に加え、国家石油備蓄基地や原子燃料サイクル施設が立地しており、多様なエネルギー関連施設が集積しています。

同地区では2017(平成29)年に開設された県量子科学センターや核融合関連施設を始めとする研究機関において核融合、量子科学、放射線に関する最先端の研究開発が行われており、エネルギーを基軸とした産業振興と学術研究が進展しています。

このような立地を生かし、エネルギー関連施設を学びの場としても活用するため「次世代エネルギーパーク」として運営しており、エネルギーツーリズムといった新たな視点での取組が期待されます。



自然や文化が多彩な観光地

上北地域には、環境省による国立公園満喫プロジェクトに選定された十和田湖、奥入瀬渓流や遠浅で気軽にカヤックなどのアクティビティが楽しめる小川原湖などの自然の魅力を体感できる観光地のほか、様々な泉質の温泉にも恵まれており、国内外から多くの旅行者が訪れています。

特に、奥入瀬渓流においては、国と地域が協力する形で自然保護と利活用(観光振興等)を両立するための取組が進められています。

また、2016(平成28)年に第20回ふるさとイベント大賞内閣総理大臣賞を受賞した桜流鏝馬や日米交流が楽しめるアメリカンデーなど地域の特色を生かしたイベントも盛んであり、十和田バラ焼き、三沢ほっき井、横浜菜の花ドーナツなどといった地元ならではの魅力的な食メニューの提供にも力が入れています。



(2) 地域の特徴と課題

構成市町村ごとの人口と世帯数

上北地域の人口は、20万529人で、県全体の約15%を占めており、このうち、十和田市と三沢市で全体の半数を超えています。(表1)

表1 構成市町村の人口・世帯数

	十和田市	三沢市	野辺地町	七戸町	六戸町	横浜町	東北町	六ヶ所村	おいらせ町	合計
人口(人)	63,429	40,196	13,524	15,709	10,423	4,535	17,955	10,536	24,222	200,529
世帯数	25,487	16,367	5,565	5,572	3,570	1,785	5,974	4,683	8,658	77,661

資料:総務省「平成27年国勢調査」

将来推計人口

上北地域の人口は、2030年の時点では17万408人と、2015(平成27)年と比べ約3万人減少するものと推計されています。また、2030年には生産年齢人口割合が総人口の51.9%まで減少、前期高齢者人口は14.2%まで増加し、後期高齢者人口は23.6%まで増加する見込みです。(図1、表2)

図1 将来推計人口の推移(上北地域)

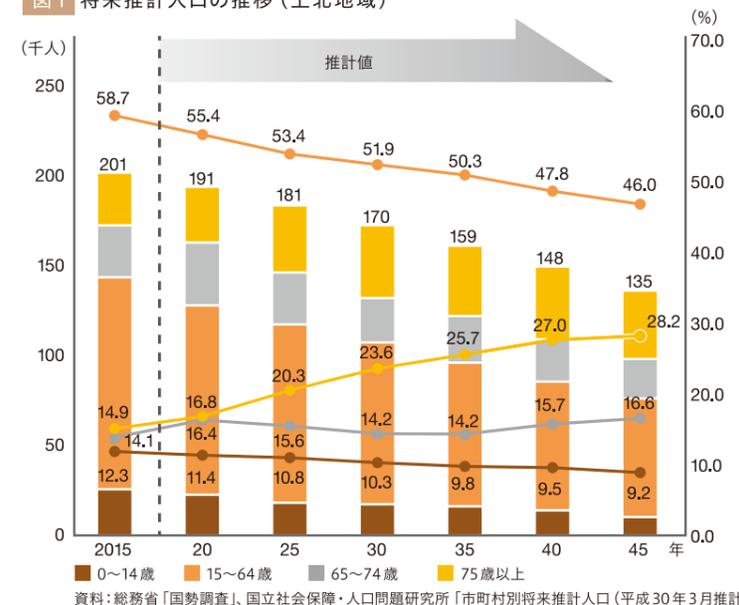


表2 構成市町村別将来推計人口(人)

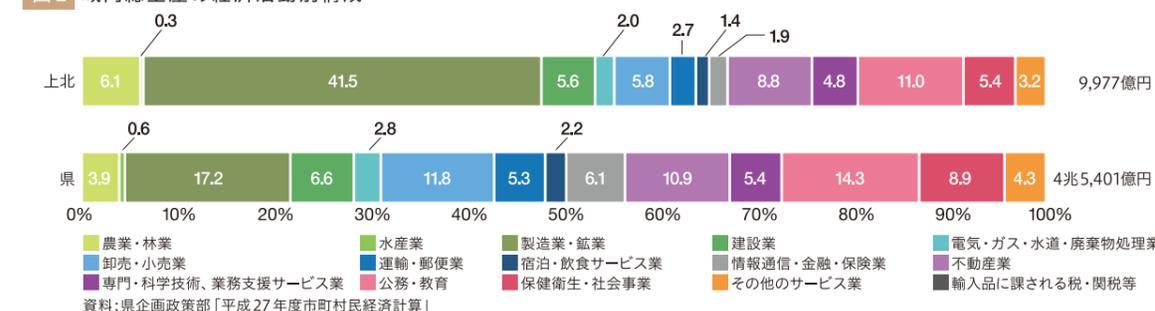
	2015年	2030年	2045年
十和田市	63,429	53,692	41,907
三沢市	40,196	34,956	28,757
野辺地町	13,524	10,735	7,829
七戸町	15,709	11,843	8,227
六戸町	10,423	9,591	8,278
横浜町	4,535	3,479	2,517
東北町	17,955	14,329	10,657
六ヶ所村	10,536	8,791	6,955
おいらせ町	24,222	22,992	20,275
計	200,529	170,408	135,402

資料:国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」

域内総生産の経済活動別構成

域内総生産は9,977億円となっており、県全体の約22%を占めています。内訳を見ると、「製造業・鉱業」の割合が最も高く、次いで、「公務・教育」、「不動産業」、「農業・林業」の割合が高くなっています。県全体と比べると「製造業・鉱業」、「農業・林業」の割合が高く、「卸売・小売業」、「運輸・郵便業」、「情報通信・金融・保険業」などの割合が低くなっています。(図2)

図2 域内総生産の経済活動別構成

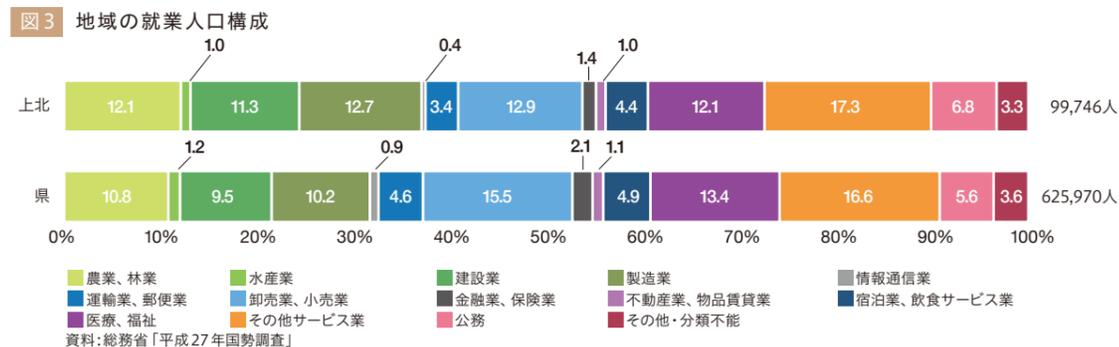


*蓄電池併設型ウインドファーム:風力発電設備と蓄電池を合わせて電力量を制御し、調整した電力を供給する風力発電事業者のことで。

就業人口構成

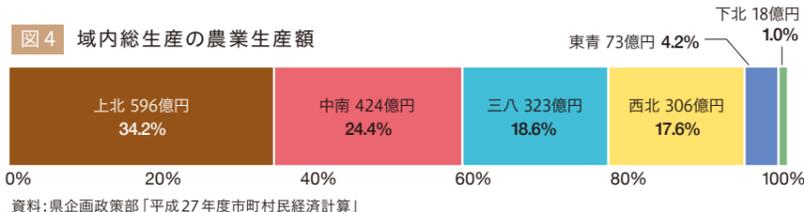
就業人口は9万9,746人で、県全体(62万5,970人)の15.9%となっています。内訳で見ると、「その他サービス業」の割合が最も高く、次いで、「卸売、小売業」、「製造業」の割合が高くなっています。

県全体と比べると、「製造業」、「建設業」、「農業、林業」の割合が高く、「卸売業、小売業」、「医療、福祉」、「運輸業、郵便業」の割合が低くなっています。(図3)



農業生産額

上北地域の農業生産額は、596億円となっており、県全体の34.2%を占め、県内で最も高くなっています。(図4)



主要野菜作付面積

ごぼう、ながいも、にんにくなどの多くの品種において、県全体の半数以上の作付面積を上北地域が占めています。(表3)

表3 主要野菜・水稲作付面積 (単位: ha)

	ごぼう	ながいも	だいこん	にんにく	にんじん	ばれいしょ	キャベツ	ねぎ	こかぶ	水稲
上北	1,535	1,354	1,300	1,034	492	315	142	99	91	7,290
県全体	1,926	2,010	1,876	1,714	634	468	175	308	97	42,600
割合	79.7%	67.4%	69.3%	60.3%	77.6%	67.3%	81.1%	32.1%	93.8%	17.1%

資料: 県上北地域農政局地域農林水産部 (2016 (平成28) 年)

主要家畜飼養頭羽数

乳用牛、肉用牛、豚の飼養頭数の県全体の半数以上を上北地域が占めています。(表4)

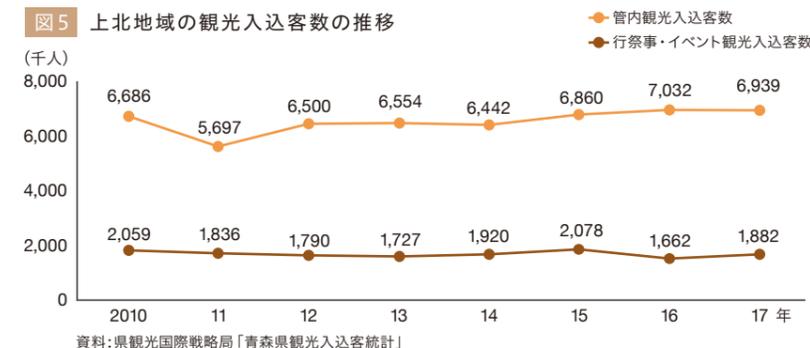
表4 主要家畜飼養頭羽数 単位: 頭 (牛・豚)、羽 (鶏)

	乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏
上北	9,000	36,460	244,000	2,413,850	3,553,170
県全体	11,900	55,700	370,300	6,737,900	7,722,500
割合	75.6%	65.5%	65.9%	35.8%	46.0%

資料: 県上北地域農政局地域農林水産部 (2017 (平成29) 年)

観光入込客数

観光入込客数は、2011(平成23)年度、東日本大震災の影響により大きく減少しましたが、近年は増加傾向にあり、震災前の水準まで回復しています。2015(平成27)年度の行祭事・イベント観光入込客数の増加は、B-1グランプリin 十和田が大きく影響しています。(図5)

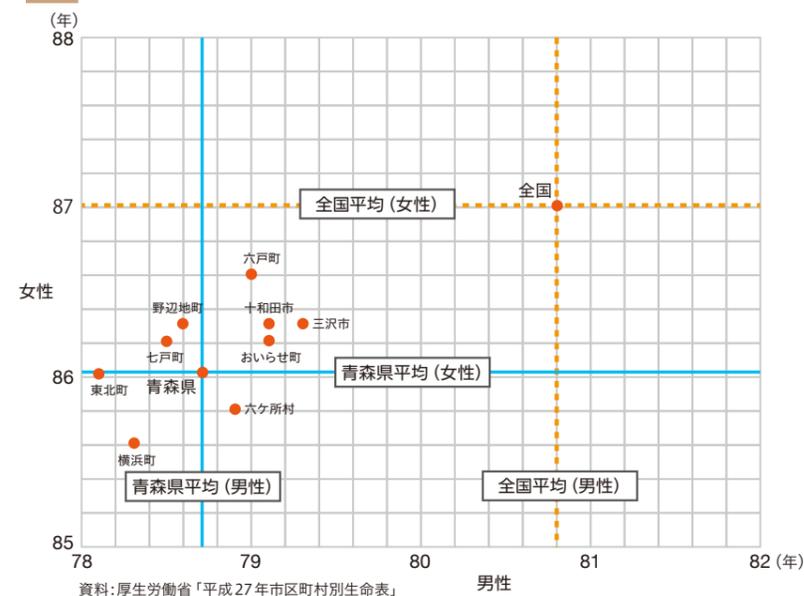


資料: 県観光国際戦略局「青森県観光入込客統計」

生活面

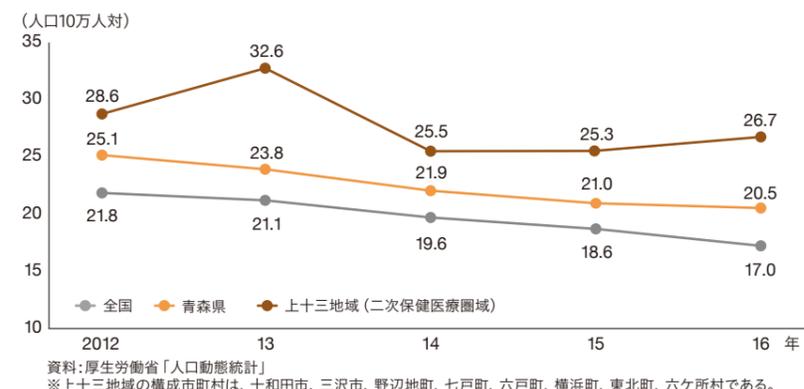
生活面では、県内他地域と同様に人口減少や高齢化などが進行していること、自殺による死亡率が比較的高いことを踏まえ、東日本大震災の教訓を生かし、誰もが安全で安心して暮らせる地域づくりを進める必要があります。(図6、図7)

図6 市町村別平均寿命



資料: 厚生労働省「平成27年市区町村別生命表」

図7 全国・県・上十三地域の自殺死亡率の推移



資料: 厚生労働省「人口動態統計」
※上十三地域の構成市町村は、十和田市、三沢市、野辺地町、七戸町、六戸町、横浜町、東北町、六ヶ所村である。

3. 今後5年間の取組の基本方針と主な取組

1 これからの農林水産業を支える基盤と稼ぐ仕組みづくり

人口減少と高齢化が進む状況においても、持続的に上北地域の農林水産業を成長させていくため、新たな担い手の確保や地域の中核を担う経営体の育成に加えて、地域コミュニティの活性化を図るとともに、経済のグローバル化や労働力不足に対応した野菜・畜産などの生産体制の強化や、担い手への農地の集積・集約化を推進します。

また、消費者ニーズに対応した質の高い農林水産物の安定供給とブランド力の向上を図り、産地直売施設などを生かした地産地消の推進と新たな市場への販路拡大に取り組みます。

主な取組

- ①「地域経営」の推進による担い手の確保・育成と地域コミュニティの活性化
- ②労働力補完体制の整備と省力化に向けた機械・施設の導入の促進
- ③担い手の高生産性農業の実現に向けたほ場整備の推進
- ④土づくりやGAP等の推進による安全・安心で高品質な農林水産物の安定生産
- ⑤商品開発の促進や組織活動の強化による地産地消の推進とブランド化による国内外への販路拡大

3 安全・安心で健康に暮らせる地域共生社会づくり

人口減少や高齢化が進行する中で、地域で住民を支え合う地域コミュニティを強化し、災害に強い地域づくりを進めるとともに、地域住民の健康づくりなどに取り組み、地域共生社会づくりを推進します。

主な取組

- ①保健・医療・福祉包括ケアシステムを基盤とした、市町村・地域との協働による健康に暮らせる地域づくり
- ②住民のヘルスリテラシー（健やか力）の向上による生活習慣の改善
- ③ゲートキーパーの育成などを通じた地域社会で取り組む自殺予防対策の推進
- ④自然災害や感染症発生時における危機管理体制の強化
- ⑤災害に強い地域づくりに向けた防災公共の推進、重点道の駅[※]として選定された道の駅よこはまエリアでの防災拠点の整備促進
- ⑥セーフコミュニティ[※]の理念の普及

2 地域の資源や強みを生かした魅力あるしごとづくり

上北地域の強みである豊富な農林水産物を生かした農商工や研究機関の連携による食産業の振興、美しい自然、温泉、食、歴史、文化などの地元ならではの資源を生かした魅力ある観光地づくり、風力発電等の再生可能エネルギー施設や原子燃料サイクル施設を始めとする多様なエネルギー関連施設の集積を生かしたエネルギー関連産業の振興に取り組みます。

主な取組

- ①農商工業者・関係機関等の連携による地元食材を生かした食関連産業の振興
- ②国立公園満喫プロジェクトを契機とした十和田湖・奥入瀬溪流観光の活性化
- ③三沢空港や東北新幹線七戸十和田駅などの交通利便性を生かした、四季を通じて楽しめる周遊観光の推進
- ④インバウンドもターゲットに、地域の暮らしを体験するまち歩きや民泊、自然、風土、歴史（北前船等）、文化（馬等）、食などに焦点を当てた、新たな視点での観光コンテンツの磨き上げと情報発信の強化
- ⑤DMO等を主体とした、地域の連携による観光地づくりの推進とこれを支えるガイド等の観光人財の育成
- ⑥多様なエネルギー資源・関連施設を生かした関連産業の振興

4 上北の明日を創る人財の確保・育成とネットワークづくり

これからの地域づくりを進める上で人財は何よりも重要であり、地域全体で育てていく必要があるため、地元への強い想いを抱き、夢を形に変えていく、地域の核となる人財の育成や活動を円滑にするためのネットワークづくりを支援するとともに、次世代の地域を担う子どもたちを地元への愛着と誇りを持った人財に育てるための取組を推進します。

また、活力ある地域づくりに必要となる人財を確保するため、若年者の定住や大都市圏からの移住の促進などによる人財の還流に向けた取組を進めます。

主な取組

- ①地域を理解し、関係者と協力しながら課題を解決できる人財の育成
- ②地域づくりに取り組む人財や団体等の活動を円滑にし、連携した取組を支えるネットワークづくりの推進
- ③地域への理解と愛着を深めるための学習の場の提供
- ④地域が育んだ人財の定住と首都圏等からの移住の拡大による人財の還流の促進

[※]重点道の駅：地域活性化の拠点となる企画の具体化に向け、今後の重点支援で効果的な取組が期待できるものとして国土交通省が選定する道の駅のことです。
[※]セーフコミュニティ：事故によるけが、犯罪、暴力、自殺などを偶然的結果として捉えるのではなく、科学的なデータに基づく適切なプログラムで予防し、改善につなげていくために、行政、民間団体、地域住民など多くの主体の協働により、地域ぐるみで行う取組のことです。

下北地域

むつ市、大間町、東通村、風間浦村、佐井村



1. 2030年における地域のめざす姿

住民も訪れる人も心地よい時を過ごす下北地域

四方を海に囲まれた下北地域では、古くからの域外との交易・交流により育まれた、優しく、おおらかな気風に包まれ、多様な地質と海洋環境、大地の上に広がる動植物の多様性、人々の暮らしにより育まれた本州最北の地に守り継がれる文化と信仰の下、住民も訪れる人も心地よい時を過ごしています。

また、古き良きモノを守りながらも、新しいモノを融合させ、地域の様々な分野の人が、連帯感をもって、ふるさとの元気をつくり続け、暮らしやすく、多くの人が訪れる魅力ある地となっています。

地域の基盤となる経営体質の強い農林水産業と高いブランド力で地域内外から選ばれる下北の農林水産物

下北地域では、自然条件等の地域特性を生かし、「農林水産業でしっかり稼ぎ、暮らしていける下北地域」の確立に向けて、定置漁業、イカ釣り漁業やホタテ養殖などの主力漁業、稲作や畑作、酪農、肉用牛繁殖等の農畜産業、管内面積の約8割を占める森林の整備・管理を基本とした原木供給など地域の基盤となる産業において、規模拡大や低コスト生産等により経営体質が強化されています。

また、つくり育てる漁業や資源管理型漁業の推進による安定生産体制の確立、産直施設を核とした地域の活性化及び意欲ある若手・高齢・女性農林漁業者や新規参入者も含めた多様な担い手の確保・育成により、マグロやキアンコウ、海峡サーモン、一球入魂かぼちゃ、アピオスなど下北特有の多種多様な農林水産物のブランド力が強化され、夏秋いちごの作付けが伸び、産地が拡大しています。

さらには、地域の様々な主体が連携し、付加価値を高める取組が戦略的に行われることで、下北ならではの極上品としてのブランドが確立してきており、地域の内外から選ばれるようになっています。

観光客が繰り返し訪れる下北地域

下北ジオパーク※に代表される独特の自然・歴史・文化・食などの豊富な観光資源が更に磨き上げられるとともに、個々の資源の連携が図られ、観光客の多様なニーズに応じた観光プランが提供されています。

交流を支える交通基盤の整備が進み、地域外との交流が盛んになり、外国人観光客が増えています。

地域経済をけん引する観光産業が発展し、快適に滞在できる体制が整っている上、地域住民との温かいふれあいを体験できることから、満足度の高い「何度も訪れたい地」となっています。

安心して健やかに暮らせる下北地域

下北地域の住民は、きれいな水や空気に恵まれた緑豊かな森林など、生命力あふれる自然を健康づくりの場として活用しています。さらに、地元の多種多様な食材をふんだんに活用することで、健康的で自立した食生活を営み、平均寿命が延びています。

また、「青森県型地域共生社会」の下で、必要な時に適切な保健・医療・福祉・生活支援等のサービスを受けることができ、年齢や障害の有無にかかわらず、誰もが安心して暮らしています。

手をつなぎ力を合わせる下北人

下北人は、子どもの時から、地域の歴史・自然・産業・文化・伝統・芸能を誇りに思い、地域の魅力を発信し続けています。さらに、地域内外の人と連携・交流し、国際的視野を持って地域産業をリードする人材や地域づくりに積極的に取り組む人材が活躍しています。

※ジオパーク：ジオ(大地)とパーク(公園)を組み合わせた言葉で、ジオ(大地)・エコ(自然)・ヒト(生活・文化)のつながりを学び、楽しむことができる場所のことです。

2. 地域の概要、特性と課題 ～めざす姿の背景～

(1) 地域の概要

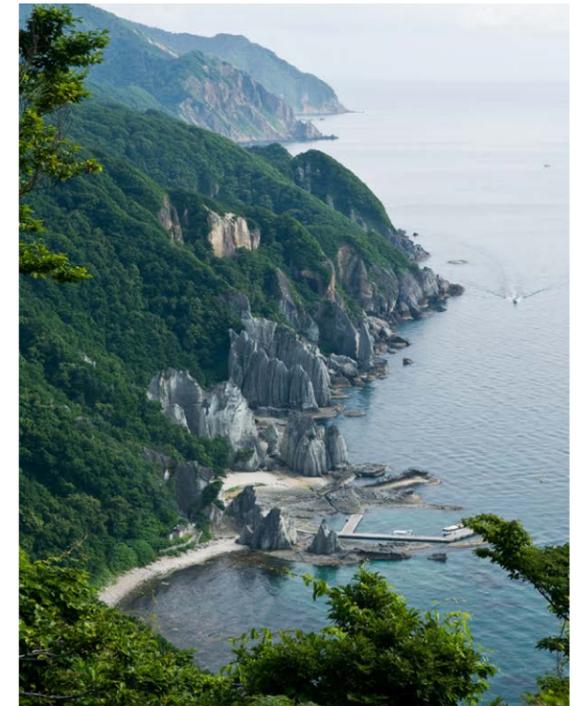
本州最北端の地域

下北地域は、青森県の最北部に位置し、四方を海に囲まれ、海に突き出た特徴的な地形から「まさかり半島」と呼ばれています。

面積は1,415平方キロメートルと県土の約15%を占め、急峻な山地が海岸まで迫り、平野部の少ない地形であり、約83%が森林です。

地域内でも場所により気候が異なっており、陸奥湾に面している西通りでは、夏は暑く、冬は雪が多い、津軽海峡に面している北通りでは、冬に海峡から吹き付ける風が強く、降雪量及び積雪量は少ない、津軽海峡と太平洋に面している東通りでは、夏は北東から吹く偏東風(ヤマセ)の影響で涼しく、山間部では降雪量及び積雪量が多いが、沿岸部では少ない、といった特徴があります。

本州最北端の地域であり、ニホンザル、ツキノワグマ、ニホンカモシカなどが生息する北限の地となっています。



陸路と航路の交通体系

地域の交通については、「まさかり」の柄の部分を通る1本の鉄道(JR大湊線)と2本の国道(国道279号、国道338号)で上北地域と結ばれており、その2本の国道が地域を周遊する形で結ばれることで主要な道路網が形成されているほか、下北半島縦貫道路むつ南バイパスの整備が進められています。今後は、高速交通体系を含めた道路網の整備が望まれています。また、東青地域や北海道との航路も有し、生活や交流の重要な手段となっています。



個性的な自然と交流の歴史・文化

自然豊かな下北では、恐山、薬研渓流、仏ヶ浦、本州最北端の大間崎、寒立馬が放牧されている尻屋崎などの景勝地を含む下北半島国定公園があり、また、むつ市の海底林、川内川渓谷、大間町の津鼻崎、東通村のヒバの埋没林、風間浦村の集塊岩、佐井村の願掛岩など貴重な地質資源が数多くあります。

2016(平成28)年には、下北ジオパークが日本ジオパークとして認定されました。下北を代表する景勝地を含む16のジオサイトから成り、地域一帯が学術的な観点からも高く評価され、大地、自然、生活・文化を学び、楽しめるジオパークとして、下北ジオパーク推進協議会が中心となり活用・研究・保全活動を展開しています。

海を通じての交易・文化交流に歴史を有し、江戸時代には、北前船により、北方、江戸、上方の文化がもたらされました。また、明治維新に際し、会津藩が廃藩後、1年半の間斗南藩を置いたことから、今もゆかりの史跡が残っています。

国の重要無形文化財である「下北の能舞」を始め、佐井村の福浦歌舞伎、むつ市の奥内歌舞伎、栗山大神楽など、数多くの伝統芸能が各地に伝わっています。



多様な山海の幸や温泉を楽しめる地域

このような独特の自然・歴史・文化・伝統芸能のほか、豊富な山海の幸、温泉などの観光資源に恵まれており、他の産業とも連携した体験型の観光が数多く提供されています。

農林水産業では、良好な漁場を有することから、漁業が盛んであり、マグロ、キアンコウ、ヒラメ、サケ、タラ、コンブなど多種多様な水産物が水揚げされており、全国的な知名度を誇る大間まぐろに続き、風間浦鮫鱈、海峡サーモンなどのブランドの確立をめざしています。農業では、畜産が盛んなほか、商標登録した一球入魂かぼちゃを始め、夏秋いちご、アピオスなど特色ある産地が形成されています。

また、日本三大美林に数えられる青森ヒバの産地であることから、ヒバを活用した産品づくりも行われています。



(2) 地域の特徴と課題

構成市町村ごとの人口と世帯数

下北地域の人口は、7万4,451人で、県全体の5.7%を占めており、このうち、むつ市が79%程度を占めています。(表1)

表1 構成市町村の人口・世帯数

	むつ市	大間町	東通村	風間浦村	佐井村	合計
人口(人)	58,493	5,227	6,607	1,976	2,148	74,451
世帯数	24,475	2,152	2,578	823	906	30,934

資料：総務省「平成27年国勢調査」

将来推計人口

下北地域の人口は、2030年の時点では6万714人と、2015(平成27)年と比べて1万3,737人、18.5%減少すると推計されています。また、2030年には生産年齢人口割合が総人口の51.6%まで減少、前期高齢者人口は14.8%まで増加し、後期高齢者人口は24.1%まで増加する見込みです。(図1、表2)

図1 将来推計人口の推移(下北地域)

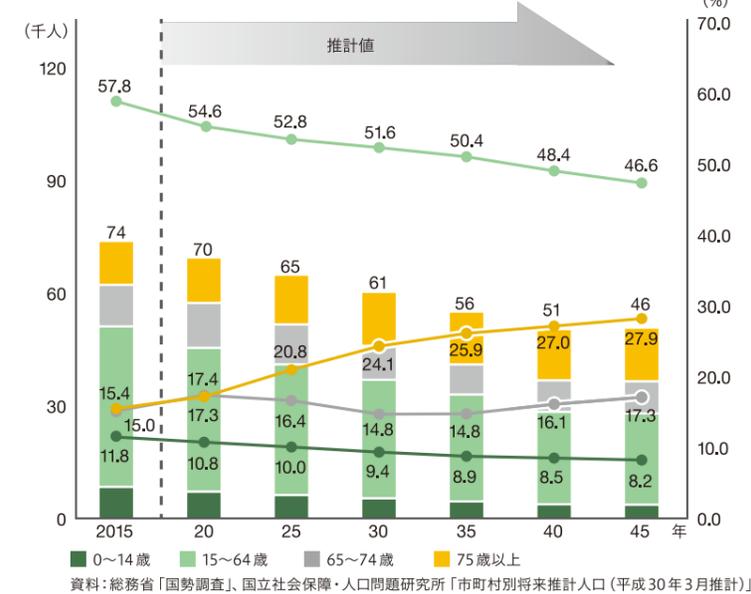


表2 構成市町村別将来推計人口(人)

	2015年	2030年	2045年
むつ市	58,493	49,015	37,851
大間町	5,227	3,782	2,520
東通村	6,607	5,199	3,778
風間浦村	1,976	1,311	774
佐井村	2,148	1,407	843
計	74,451	60,714	45,766

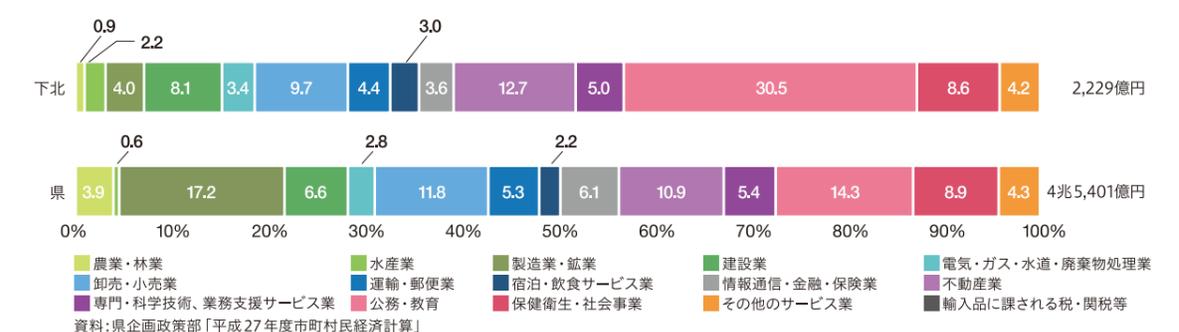
資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」

域内総生産の経済活動別構成

域内総生産は2,229億円となっており、県全体の約4.9%を占めています。内訳を見ると、「公務・教育」、「不動産業」のほか、「卸売・小売業」の割合が高くなっています。

県全体と比べると、「公務・教育」、「不動産業」や「水産業」の割合が高く、「製造業・鉱業」や「農業・林業」の割合が低くなっています。(図2)

図2 域内総生産の経済活動別構成

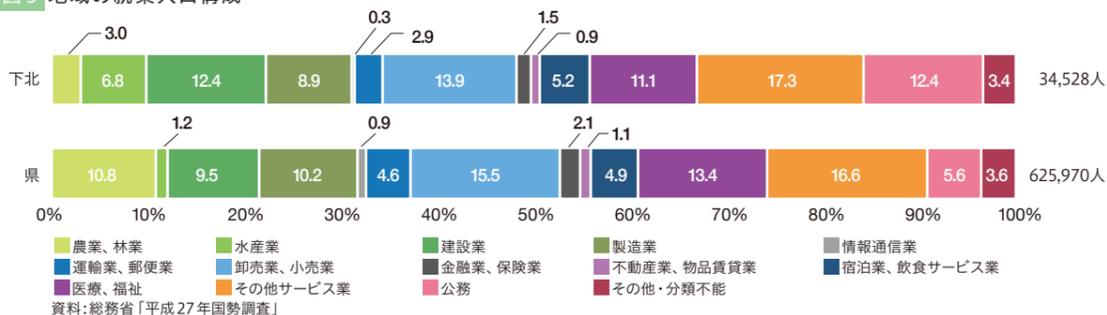


就業人口構成

就業人口は3万4,528人となっており、県全体の5.5%を占めています。内訳を見ると、「その他サービス業」の割合が最も高く、次いで「卸売業、小売業」、「公務」、「建設業」の割合が高くなっています。

県全体と比べると「公務」や「水産業」の割合が高く、「農業、林業」、「医療、福祉」の割合が低くなっています。(図3)

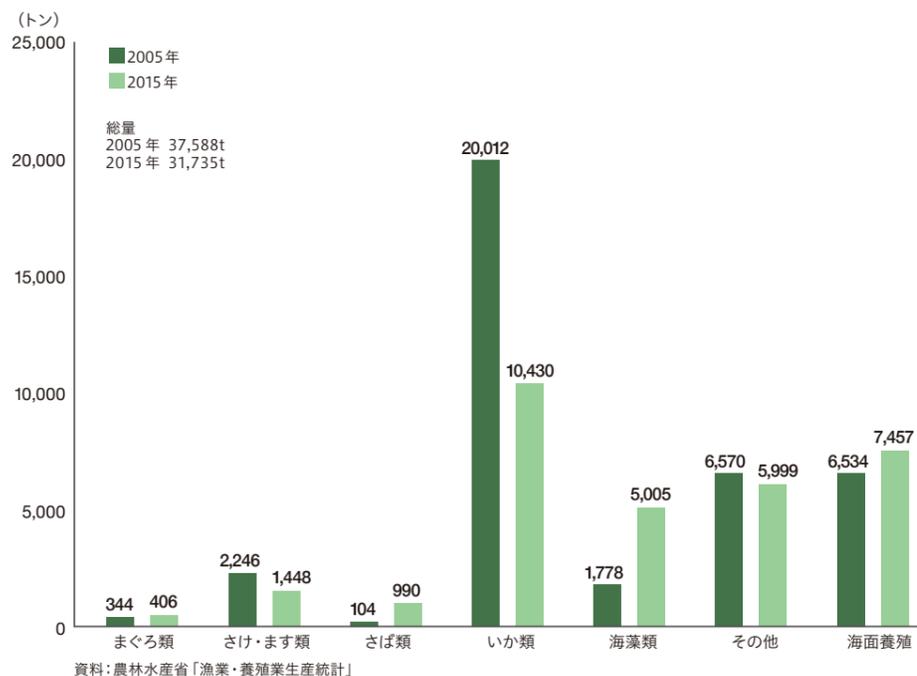
図3 地域の就業人口構成



海面漁業・海面養殖業生産量

下北地域の海面漁業・海面養殖業生産量では、従来から、いか類が生産量の多くを占めていますが、2005(平成17)年と比べると半分近く減少しています。(図4)

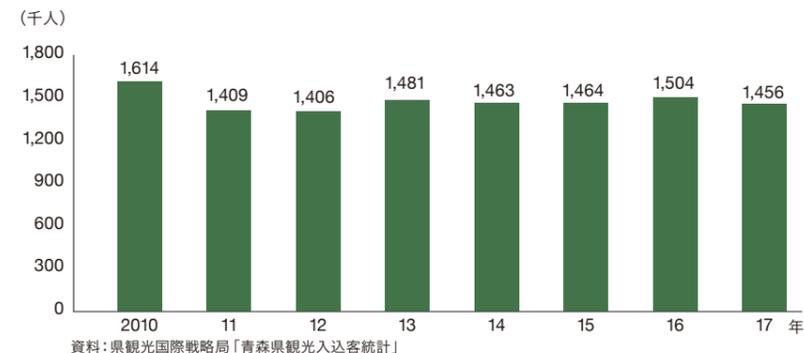
図4 下北地域の海面漁業・養殖業生産量の状況



観光入込客数

2017(平成29)年における下北地域の観光入込客数は145万6千人となっており、前年と比べると3.2%ほどの減少となっています。2011(平成23)年の東日本大震災以前の水準には戻っていませんが、緩やかな回復傾向が見られます。(図5)

図5 下北地域の観光入込客数の推移



健康指標

下北地域では、男性の平均寿命で全ての市町村が全国順位のワースト50位以内となっているなど、健康に関する指標が芳しくない状況にあります。

主な健康課題として、肥満者の割合や喫煙率が高いこと、がん検診の精密検査受診率が低いことなどが挙げられます。

肥満傾向児出現率は、小学校1年生から高校3年生までの全年齢層で県平均を上回るとともに、小学校2年生の年齢層を除き県内の他地区より高くなっています。(図6、図7)

図6 市町村別平均寿命

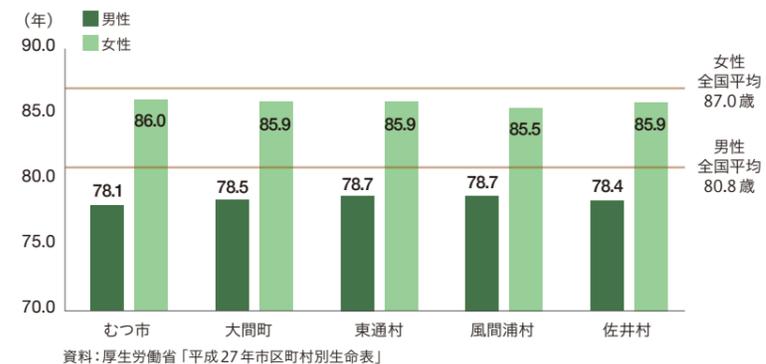
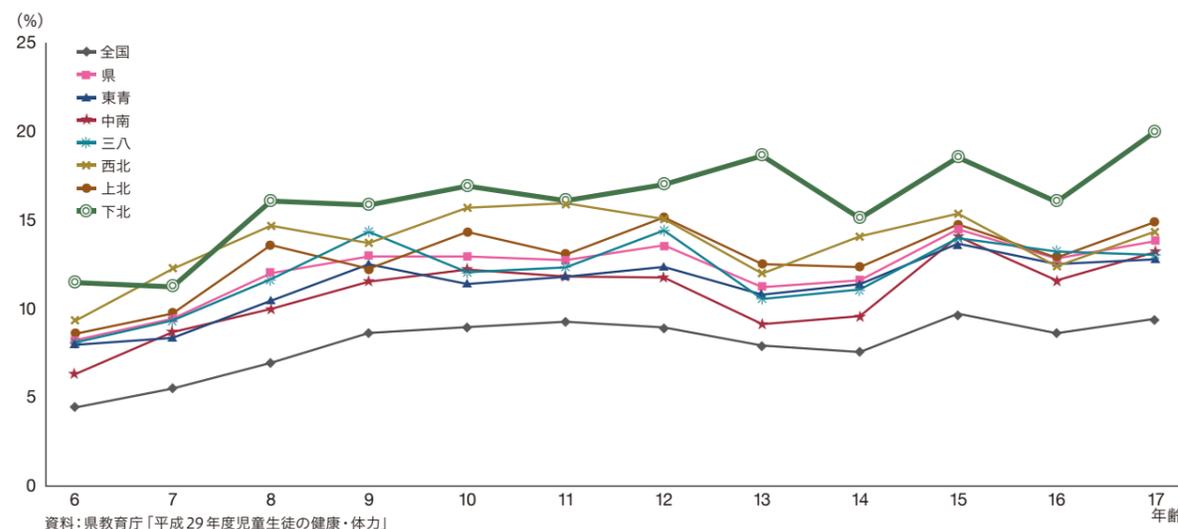


図7 肥満傾向児出現率地区別比較 (男女)



3. 今後5年間の取組の基本方針と主な取組

1 地域の特長を生かした農林水産業の充実

自然条件等の地域特性を生かして、地域の基盤となる農林水産業の体質強化に取り組み、下北ならではの特色ある地域ブランドの確立をめざします。

主な取組

- ① 地域の特性に応じた規模拡大や低コスト生産等による経営改善
- ② 若手・高齢・女性農林漁業者や新規参入者等多様な担い手の確保・育成
- ③ つくり育てる漁業や資源管理型漁業の推進と漁場の維持・再生
- ④ 地域に適した特色ある農林水産物の生産地域拡大、ブランド力の向上及びSNSの活用等による情報発信力の強化
- ⑤ 生産者間や食品製造業の異業種との連携促進による産地直売所の活性化と新たなビジネス展開の推進
- ⑥ 森林の整備、管理及び間伐材の新たな利用の促進
- ⑦ 広葉樹林主体の里山林整備による地域ぐるみの持続可能で安全・安心な環境づくり

2 満足度の高い下北観光の推進

下北ジオパークに代表される独特の自然・歴史・文化・食などを活用し、関係者が一体となって、多様な顧客ニーズに対応した観光サービスを提供する仕組みづくりと情報発信の強化に取り組みます。

また、北海道新幹線と空路、下北ならではの航路等を連携させた広域的・立体的な交流促進を図るとともに、外国人観光客の受入態勢の充実に取り組みます。

さらに、観光で「経済を回す」視点を持ち、観光客の満足度を高めることによるリピーターの確保をめざします。

主な取組

- ① 下北ジオパークを始めとする観光資源の開発や磨き上げによる安定的な観光客受入れの推進
- ② 他地域との連携による広域観光の推進
- ③ 外国人観光客の受入れに向けた環境整備及び人材育成
- ④ 地域の観光情報発信の強化
- ⑤ ICTの利活用の促進
- ⑥ 交通基盤の整備、鉄道・空路・航路の連携

3 健康なまちづくりの推進

下北地域の健康課題である高い肥満傾向児出現率や高い喫煙率の改善に向け、妊産婦への保健指導の充実及び、小児期の健康的な生活習慣の定着に取り組むとともに、がん検診の精密検査受診率を向上させ、平均寿命の延伸を図ります。

また、これまで取り組んできた保健・医療・福祉包括ケアシステムを更に充実させ、「青森県型地域共生社会」の実現に向けた体制づくりを推進します。

主な取組

- ① 小児期からの効果的な食・運動・生活習慣定着の促進
- ② 飲食店等での受動喫煙のない環境の推進
- ③ がん検診の精密検査受診率の向上に向けた普及啓発
- ④ 市町村等の支援を受けて、多様な主体が保健・医療・福祉サービスや、生活支援サービス等を提供する体制整備の推進

4 元気な下北をつくる人づくり

地域の歴史・自然・産業・文化・伝統・芸能といった魅力を生かした、活力ある地域づくりに向けて活動する人材の育成とネットワークづくりを推進します。

主な取組

- ① 地域の魅力を発掘し、新たな価値を創造して、更に広める人材の育成
- ② 地域の活性化やコミュニティ機能の維持に向けた、主体的な活動を実践する人材の育成
- ③ 交流人口・関係人口の拡大とU・I・Jターンの推進